

猛暑で感じた水の大切さ

山添村立山添中学校 二年

稲場 翔也

小学生の時に僕は生き物係を担当していました。そのため多種多様な生きものとふれ合う機会がたくさんありました。

例えば、フナなどの小魚を飼うことになり、とってきた魚たちの中に少し変わった生き物がいたことがあります。よく見ると魚ではなく凶鑑で調べるとサンショウウオ系の幼生だった時は驚きました。

そんな中でも一番好きだったのがメダカです。えさを食べる様子や泳いでいる様子かわいく感じ、授業中に時間を忘れてポーツとながめていることが度々ありました。

そして昨年の夏、中学生になり生き物係も無くなり、その時にあずかったメダカも逃がしていた僕はまた何か生き物を飼いたいなあと思っていました。そんな時に僕の祖父が、「おいつ、お前あの昔よくいつとたメダカが

ぎようさんおった池あるやろ。あれ、干上がりかけとるで。」
と言ってきた。

その池というのは、近所にあるとてもきれいな池のことで、メダカをはじめカエルなどたくさん生き物が生活している場所です。また、小さい時毎日のように遊びに行っていた思い出多い場所でもあります。そんな池が今、干上ってしまった。危機があると知り、かなり驚きました。それは水量も安定しているし今まで僕の知る中で、一度も干上がるようなことは無かったからです。

その翌日、僕と祖父は問題となっているその池に行くことにしました。作戦は、昔あつた井戸から水をくみ上げ、そのまま池に流し込むという単純なものです。

近くに川もありましたが、あまりきれい

よべるような川ではなく、きれいな環境を好むメダカたちにはあまり適したものではありませんでした。

しかし、水をくみ上げるためのポンプの調子が良くなり、しばらく手動で水を運んでいました。思ったよりも重労働で少しの間でへとへとになってしまいました。この時改めて今の蛇口をひねれば水がでてくるという環境に感謝しました。

二、三回ぐらい運んだあたりでポンプは直り僕はその重労働から解放され、無事池に水を貯めることができました。

去年の夏は、政治上の問題などもたくさんありましたが、その中でもやはり「観測史上最も暑い夏」ということが一番心に残りました。しかも身近に猛暑の影響を感じることはできませんでした。しかし僕はこの体験を幸運に思います。それは水の豊かな日本では「水」について真剣に考えたり、見つめ直したりすることあまりしていません。思うからです。

今回の猛暑は僕にとつていい意味で「水」について教えてくれました。そしてほかにも水不足などを今回体験した人はたくさんいる

と思います。だから嫌な思い出、体験として終わらせるのではなく「水」について考えられた機会をありがたく思っています。